

令和 5 年度

教職課程

自己点検評価報告書

別府溝部学園短期大学

令和 5 年 5 月

目次

I	教職課程の現状及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程事項点検評価	
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	10
III	総合評価	13
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成のプロセス	14
V	現況基礎データ一覧	15
	令和 5 年度教職課程自己点検評価報告 資料・データ等	16

I 教職課程の現状及び特色

1 現況

(1) 大学名：別府溝部学園短期大学 ライフデザイン総合学科

食物栄養学科

幼児教育学科

介護福祉学科

(2) 所在地：大分県別府市亀川中央町 29-10

(3) 学生数及び教員数 (令和 5 年 5 月 1 日現在)

学生数：別府溝部学園短期大学

ライフデザイン総合学科 127 名／大学全体 343 名

食物栄養学科 65 名／大学全体 343 名

幼児教育学科 84 名／大学全体 343 名

介護福祉学科 67 名／大学全体 343 名

※ライフデザイン総合学科・介護福祉学科は教職課程なし

教員数：教職課程科目(教職・教科とも)

食物栄養学科 15 名／大学全体 48 名(専任教員)

幼児教育学科 12 名／大学全体 48 名(専任教員)

※ライフデザイン総合学科・介護福祉学科は教職課程なし

2 特色

本学は、建学の精神である「自立・自活できる人材の育成」の理念に基づき、教職に対する強い情熱と使命感、教育の専門家としての確かな実践的指導力及び高い倫理観と豊かな人間性を身に付けた教員の養成を目指している。本学での履修と単位取得によって取得できる教職免許は、食物栄養学科(保育健康コース)の「栄養教諭二種免許状」、幼児教育学科の「幼稚園教諭二種免許状」の 2 種類がある。食物栄養学科(保育健康コース)では、栄養士と栄養教諭の免許を同時に取得し、小・中学校の児童生徒はもとより、保育所・幼稚園・認定こども園の幼児、さらにはその保護者に「食育のできる栄養士」の養成を図る。幼児教育学科では、幼稚園教諭の免許を取得し、同時に保育士資格を取得することにより保育所、幼稚園はもとより幼保連携型こども園の保育教諭として就業を目指す保育者の養成を図る。

本学の教職課程認定は以下の通りである。

◆栄養教諭二種免許状

【免許状の種類】	【課程を置く学科・コース】
栄養教諭二種免許状	食物栄養学科 保育健康コース

◆幼稚園教諭二種免許状

【免許状の種類】	【課程を置く学科】
幼稚園教諭二種免許状	幼児教育学科

II 基準領域ごとの教職課程事項点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

① 現状説明

本学は、建学の精神及び教育理念に基づき、4つのディプロマポリシー（DP）（1. はば広い教養と豊かな人間性を育む努力ができる。2. 専門的な知識や技能の修得を目指し、もって地域社会の発展に貢献できる。3. 各学科の目指す資格の取得を図るとともに、多様な資格の取得に取り組む意欲を持つことができる。4. 専門性を持った持続的就業力をつけることができる。）を定め、これらの要件を達成できるように、4つのカリキュラムポリシー（CP）（1. 基礎教育科目をとおして、はば広い教養と豊かな人間性を育成するとともに、心身ともに健康で国際化社会に対応できる人材を育成する。2. 各学科が設置する専門教育科目をとおして、専門的な知識や技能の修得を目指し、もって地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。3. 様々な教育プログラムをとおして、各学科の目指す資格の取得を図るとともに、多様な資格の取得に取り組む意欲のある人材を育成する。4. インターンシップ、キャリア教育、各種の実習をとおして実践的教育を図るとともに、就職支援を行い持続的就業力をもつ人材を育成する。）に基づきカリキュラムを編成する。

各学科は上述の方針のもと、各学科の学位授与方針に根差したカリキュラムを設定しており、教職課程を設置する食物栄養学科及び幼児教育学科は、教職課程教育の目的・目標をこれに内包する。また、本学の学生が身につけるべき学習成果は、「学位授与の方針（DP）」「教育課程の方針（CP）」「入学者受入の方針（AP）」に基づき、機関レベル・教育課程レベル・科目レベルの3段階で査定する方法を定めている。

◆本学3つのポリシー（DP、CP、AP）

【学位授与の方針（DP）】	【教育課程の方針（CP）】
1. はば広い教養と豊かな人間性を育む努力ができる。 2. 専門的な知識や技能の修得を目指し、もって地域社会の発展に貢献できる。 3. 各学科の目指す資格の取得を図るとともに、多様な資格の取得に取り組む意欲を持つことができる。 4. 専門性を持った持続的就業力をつけることができる	1. 基礎教育科目をとおして、はば広い教養と豊かな人間性を育成するとともに、心身ともに健康で国際化社会に対応できる人材を育成する。 2. 各学科が設置する専門教育科目をとおして、専門的な知識や技能の修得を目指し、もって地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。 3. 様々な教育プログラムをとおして、各学科の目指す資格の取得を図るとともに、多様な資格の取得に取り組む意欲のある人材を育成する。 4. インターンシップ、キャリア教育、各種の実習をとおして実践的教育を図るとともに、就学支援を行い持続的就業力をもつ人材を育成する。

【入学者受け入れ方針（AP）】	
食物栄養学科	幼児教育学科

食物栄養学科が求める学生像 1.科学的な視点から食をとおして、健康、食育、地域について考え、協調性を持って行動できる人。 2.実験、実習、体験学習などとおして、専門性を高めていける人。 3.就職に対して真剣に考え、就業の意欲を持っている人。 入学者に求める知識・能力等 入学後の学修に必要な学力として次のような知識・能力等を求めます。 1.知識及び技能 「国語」「外国語」「理科」「家庭」などの教科について幅広く履修し、高等学校卒業相当の知識を有している。 2.思考力・判断力・表現力 様々な事象を多面的に考察することができ、それを自分の言葉で説明できる 3.主体的に協働する態度 健康の維持・増進のために食物と栄養に関する様々な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に他者と協働する態度を有している。	幼児教育学科が求める学生像 1.こどもの意志を尊重し、こどものために積極的に行動できる人。 2.こどもの教育や保育に関する知識や技術について学ぶ意欲が高い人。 3.めざす保育者像があり、自己を省みることができる人。 4.こどもの教育や保育のために情熱を持ち努力を継続することができる人。 5.誠実さと素直さを持ち、コミュニケーションを大切に人。 入学者に求める知識・能力等 入学後の学修に必要な学力として次のような知識・能力等を求めます。 1.知識及び技能 「国語」「外国語」「理科」「家庭」などの教科について幅広く履修し、高等学校卒業相当の知識を有している。 2.思考力・判断力・表現力 様々な事象を多面的に考察することができ、それを自分の言葉で説明できる。 3.主体的に協働する態度 子どもに関する様々な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に他者と協働する態度を有している。
---	--

② 長所・特色

食物栄養学科の教育目標は、「社会生活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養指導」「給食の運営・管理」などに関する基礎的な知識を教授し、食を通して疾病を予防し、人々の健康を維持増進することに貢献できる専門家としての栄養士を養成することにある。保育健康コースは、子どもを対象として、生涯にわたって健康を維持増進するための食育のできる人材の育成を教育目的とし、子ども等の健康や生活活動、発達段階等の実態に即した献立作成、教育及び保育の内容の一環として給食を活用した食育の実施、食物アレルギーやその他の疾患、障がい等のある子ども等に対する個々の状況に応じた対策等ができる栄養教諭二種免許を取得できることとしている。

幼児教育学科の教育目標は、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献できる有為な保育者を育成することとし、「知識・技術」、「行動力」、「省察力」、「協働力」に整理した学習成果を達成する場合に、高度で実践的な保育と子育ての専門的知識・技能を身につけたとして幼稚園教諭二種免許状を取得できることとしている。教育課程は保育士資格を併修するカリキュラムを設定しており、就学前の乳幼児の発達の道筋を幅広く見通しながら学修することを通して高度な専門性を修得しうる体系となっている。さらに、社会の要請に応える実践力および DP に示す問題解決能力や社会に貢献する態度を育成するため、実践・体験活動を重視した教育を実施している。

③ 取り組み上の課題

本学は教職課程を設置する食物栄養学科（保育健康コース）及び幼児教育学科は、関わる教職員が限定されていることもあり全教職員の共通理解が十分に得られているとは言い難い。しかし、各課とも教職課程に関わる教職員においては、カリキュラムの検討

やシラバスの作成、教育・保育実習における事前事後指導、単位認定に係る協議等を通して教育課程教育に対する目的・目標の共有はできている。今後は、各学科会議をはじめ FD・SD 研修等を通じて現状や課題等の共通理解に努める必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

1－1－1 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） p 8- p 15

1－1－2 別府溝部学園短期大学 2023 学生募集要項 p 00

(1) 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

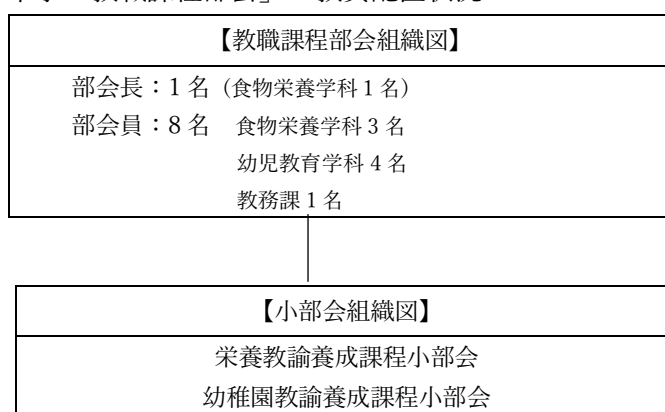
① 現状説明

本学は、教職課程認定基準を踏まえ、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員および現場経験のある教員を配置している。責任ある教職指導のための組織的な取組としては、教学委員会のもとに「教職課程部会」を設置、令和 4 年 4 月 1 日に施行し、今年度も引き続き運営している。当部会は、教職課程の編成運営及び教育実習並びに教員免許状の授与に関する事項を点検し、DP に基づく人材養成を保持する体制を構築している。さらに、下部組織として「栄養教諭養成課程小部会」「幼稚園教諭養成課程小部会」を設け、理論と実践を結び付けながら総合的に学修する実践系科目の適正、運営に当たっては実務経験のある教員を担当者に、教育実習の実施や指導に関わることや教育委員会等連携先との調整等を一体的に管理している。教職課程教育を行う上での施設・設備については、講義室、理化学研究室、給食管理実習室、調理実習室、美術教室、ピアノ室、パソコン教室、図書館、体育館をキャンパスに設置し、各教室にはプロジェクターやスクリーン、無線 LAN・Wi-Fi システムを配備するなどして効率的に活用している。

アクティブラーニング教室にはデスクトップ PC、プリンター、プロジェクターの他演習スペースやディスカッションデスク等学生の利便性を向上させている。さらに、貸出用のパソコン、DVD やブルーレイ等各種再生機、収録ビデオカメラなど、多様な授業内容や遠隔授業の提供に資するよう教務課管理にて備えている。

本学は入学生全員（および全授業担当者・職員）に大学発行のメールアドレスを発行し、学内情報システム「Digital Campus」からシラバスや成績の閲覧や授業評価、「e-PortFolio」からは行事予定やお知らせ等学生がスマホや PC を利用していつでも利用できるようにしている。

◆ 本学「教職課程部会」の教員配置状況



② 長所・特色

本学の教員組織は、建学の精神である「自立・自活できる人材の育成」に基づく教育目的を確実に具現化するための組織として整備されたものであり、学長以下、教授 16 人、准教授 11 人、講師 1 人、助教 13 人、助手 7 人、合わせて 48 人の専任教員数である。

短期大学設置基準に規定する必要専任教員数（教授数）は食物栄養学科は基準 4(2) に対して実数 12(6)、幼児教育学科は基準 8(3) に対して実数 10(5) でありいずれも基準を満たしている。なかでも、保育所や幼稚園、施設、小・中学校などの現場経験者を多く採用し配置している。教職課程の質については、GPA 分布、単位取得状況、免許資格取得状況、免許資格に関連する他の資格（健康アドバイザー、保育栄養アドバイザー、レクリエーション・インストラクター、ピアヘルパー、准学校心理士、上級救命講習修了証等）の取得状況、また学生個々の履修カルテ（履修状況や資質・能力到達度の学生自己評価等記載、学外実習に対する実習記録・報告、学外実習の評価、学外活動・社会貢献状況、学生生活に関するアンケート等）、卒業時満足度調査、専門職就職率等をもとに学科会議、学科研修等において定期的に点検している。

③ 取り組み上の課題

・教職課程における全学的取組促進のための各種目標の共有・具現化

「教職課程部会」において、教職課程の編成運営及び教育実習並びに教員免許状の授与に関する事項等を点検し、本学の建学の精神及び教育理念を具現化することが課題である。

・教職課程教育を行なう上での施設・設備の充実と活用

各教室にはプロジェクターやスクリーン、無線 LAN・Wi-Fi システム、情報漏洩回避のための体制確立等 ICT 教育環境は整備されているものの、講義や演習等で有効に活用されているとは言い難い。今後は、学生個々が自分の PC を所有し日常的情報活用能力を養成する必要がある。

・教職課程の改善を図る組織的取組

教職課程の運営に際しては、各学科、教職課程部会、教務課が実施から点検までその任を負うところであるが、令和 3 年度教職課程認定基準の改正を受け「コアカリキュラム」の内容や文言等を熟知したうえでシラバスの作成に引き続き取り組んだ。今後は学生による授業評価や学習成果等を共有し、担当授業の評価等によりシラバスの点検・改善を図る必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

1-2-1 別府溝部学園短期大学 令和 5 年度業務機構・分掌

1-2-2 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）p 31- p 35

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

(1) 基準項目 2-1 教職の担うべき適切な学生の確保・育成

① 現状説明

入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）は、本学のホームページにおいて入学志願者や社会に対し、本学の教育理念や特色などを踏まえ、就職先で期待される人材像を参考にし、入学前に学習しておくことが期待される内容を明確にしている。入学者選抜の基本方針については、入学者受入方針を具現化するために様々な角度からの評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法として、受け入れる学生に求める学習成果（「学びの三要素（(1)知識・技能、(2)主体性・意欲、(3)就業力・協働）」について明確にしている。特に、入学前に取り組んだ資格等の取得や活動歴等を重視した選考を行うこととしている。教育活動の特徴や求める学生像を明確に定め、学生募集や入学試験の選考等に活用しており、本学の教育活動は三つの方針を踏まえて行われている。また、科目等履修生・委託生など多様な学生の入学を認めている。

② 長所・特色

食物栄養学科（保育健康コース）では、栄養士と栄養教諭での免許を同時に取得し、「子ども達に楽しく食育のできる栄養士」を目指している。小・中学校はもとより保育所・幼稚園児にスポットをあて「子ども・保護者にも食育のできる栄養士」の養成に努めている。新入生課題として 1.短期大学卒業後の夢・目標（作文）2.細菌性食中毒の対策（レポート）3.家族のための夕食献立作成を課している。入学後は、初年次総合教育プログラムを導入・個別面談等を行い、個々の学生に合わせた学修支援を実施する。また、1 年次秋学期には栄養教育実習報告会を通じて教職を目指す意識を高める工夫をしている。

幼児教育学科では、入学前は入試合格者に対して入学前課題、入学直後は保育パフォーマンスや児童文化財の公演を展開し、保育者としての動機づけと意識の涵養を図る。卒業までの道程は担当教員が中心となって一人一人の学習を支援するほか、教職課程において節目となる実習科目においては個別面談等を行い、個々の学生に合わせた学修支援を実施する。学科は履修カルテにおいて学生の学修の状況を把握し、適切な支援を提供する。

③ 取り組み上の課題

全学科にほぼ共通した知識・能力等の多様な評価方法であって、教職課程入学者に特化したものはない。一方、社会人には確かな目的と十分な学力を備えている者もいる。

可能な限り、学生の意向に沿うよう個別の指導に当たる必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

2-1-1 別府溝部学園短期大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

https://www.mizobe.ac.jp/t_university_introduction/policy

2-1-2 2023 学生募集要項 別府溝部学園短期大学 p 00

2-1-3 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）別府溝部学園短期大学学則 第 12 章 科目等履修生・委託生及び外国人留学生 p 278

2-1-4 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）2 本学の機構・組織 2. 学科・コース 食物栄養学科 保育健康コース p 31-p 35

（2）基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

① 現状説明

進路については、各学科の教員や教職担当教員による個人面談を通じて一人一人のニーズを把握し、進路情報を提供している。さらに、全学組織である就職支援課が就職に関する窓口となり個別の進路の相談や要望に対し丁寧に対応する体制を整えており、ここでの面談内容も必要に応じてクラス担当や学科に共有される。

また、教育実習の事前指導の一環として模擬授業および栄養教育実習報告会に参画し、学習者の教職に対する自覚と責任、意欲を引き出す指導体制を整えている。

次に、「履修カルテ」を用いて教員を目指すに必要な教職関連科目についての履修状況と理解の振り返り指導を実施し、教員免許状取得における履修状況の達成と教員として身に付けるべき必要な知識・技能、態度について総合的に把握するなどして、自己理解自己確認ができる指導を行っている。

また、栄養士資格の必須である実習教科（栄養指導実習Ⅰ・Ⅱ）において、学園内の認定こども園および高等学校での実践授業（食育）を実施している。また、卒業生や現役教員による講演、学校給食センターへの現場見学などの機会を積極的に推奨しており、教育現場と連携してキャリアへの動機づけの向上につながる取り組みを行っている。

さらに、大分県公立学校教員採用選考試験情報や過去問（専門・教養）の提供、卒業生栄養教諭による模擬授業・面接等の助言など細やかな指導を行っている。

② 長所・特色

各学科とも、希望する学生が免許を取得することを目指し、担当教員と実習担当教員が中心となって学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握し支援している。1年後期からは、さらに進路への動機づけを高め適正な就職先を見極めるため卒業生を招いたオープンキャンパス「仕事発見」、就職試験対策として公務員試験対策講座、実技を含む専門科目の試験対策等を企画し、個別指導と連動して学生一人ひとりが適正な進路を選択できる体制を構築している。

③ 取り組み上の課題

栄養教諭二種免許または幼稚園教諭二種免許の取得を目指し教職課程を専攻する学生は少なくないが、公立学校教員採用選考試験または公立幼稚園教員採用選考試験を

受験する学生は少ない。そのため、正規の授業同様の扱いはできず、もっぱら担当教員の熱意による学生のキャリア支援に止まっている。

<根拠となる資料・データ等>

2－2－1 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）11 就職
p254-p257

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

(1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施の担うべき適切な学生の確保・育成

① 現状説明

本学は、建学の精神である「自立・自活できる人材の育成」に基づく教育目的を確実に具現化するための DP を定め、DP で示した学習成果としての資質・能力を身につけられるよう、CP を定めている。食物栄養学科（保育健康コース）は、栄養士資格と栄養教諭免許の取得に対応した教育課程を編成している。

幼児教育学科は幼稚園教諭 二種免許状・保育士資格の取得、もしくは同等の能力の獲得を求めている、免許・資格取得に対応した教育課程を編成している。また、DP に示した問題解決能力や社会に貢献する態度を育成するため、実践・体験活動を重視した教育を実施している。

教職課程カリキュラムは各学科ともコアカリキュラムを踏まえて編成しており、学生がより主体的に学修できるよう「別府溝部学園短期大学学生生活ハンドブック（2023 学生便覧）」にて体系的な編成を明確にしている。具体的には、専門性並びに学習成果に対応した授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成している。また、成績評価は学習成果の獲得を、学生に対して授業の方法及び内容並びに年間の授業計画をあらかじめ明示し、学習の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行い判断している。

シラバスには、授業科目名、担当教員、目的、到達目標、教育の 3 要素（知識・技能 主体性・意欲 就業力協働）の位置づけ、アクティブ・ラーニングの要素、毎回の授業内容、成績評価方法・基準、ルーブリックを利用した評価基準、準備学習のための具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件、教員への質問・相談の場所・時間等を記載している。

時代や社会の変化に伴い、学校教育に対するニーズは変化していることを鑑み、免許・資格の必要性を検討し、現実を直視しつつ先見性を持って教授会及び教学委員会を中心に教育課程の見直しを定期的に行っている。

②長所・特色

食物栄養学科（保育健康コース）では、1 年次に基礎教育科目及び専門教育科目の教職概論、教育原理や教育方法論等を履修、2 年次春学期には生徒指導論、教育相談論等を経た後、栄養教育実習に続くよう配当されている。なお、短期大学の特性から、1 年次に教材研究（春休み課題）への取組や 2 年次学生の模擬授業や教育実習報告会等に積極的参加を求めるなどして、早期に児童生徒に対する食育の意義や栄養教諭の役割等の自覚を促している。教育実習に当たっては、1 年次に「栄養教育実習ノート」（本学で作成）を活用し実習の目的・目標、内容、また勤務上の留意点、服装と身だしなみなど実習の心得等の事前指導を行っている。教育実習校は基本的に学生が卒業した小・中学校に依頼し、観察実習、授業実習等を通じて栄養教諭として必要な実践的指導力の基礎を習得す

るよう努めている。

幼児教育学科では、1年次を中心に基礎科目を履修し、2月、3月に基礎実習を行い、2年次に行われる保育実習・幼稚園教育実習・施設実習につながるよう配当されている。実習は学科内組織である実習委員会が管理運営し、定期的な会議を開催し課題や問題点について対応を検討する。実習の実施にあたっては、「別府溝部学園短期大学幼児教育科実習細則」を設け、事前事後指導に臨む態度や実習を許可する条件、実習の中止や辞退等について詳細を定め、学生に明示している。教職課程を含む教育課程全体における学生のパフォーマンスは、履修カルテに集約され、担当教員や教職実践演習担当教員、さらに必要に応じて実習担当教員及び実習委員会において共有、教職課程の集大成である「保育・教職実践演習（幼稚園）」（2年秋学期配当）の効果的な学修に資するよう組織的な連携を図っている。このような学修の道程において学生個々の学修進度に適した履修を促し、学修意欲を高める工夫をしている。

③ 取り組み上の課題

食物栄養学科では、栄養教育実習が5日間と短期間であることに加え実習校に栄養教諭が配置されていない場合、発育発達過程にある児童生徒の特質及び学校生活の実態や栄養教諭の立場と活動内容を理解することが難しい。

幼児教育学科では、幼稚園実習（10日）、保育実習（10日）、施設実習（10日）の三つの実習を夏季休業中に集中せざるを得ないため、実習先の選定、調整に苦慮している。さらに、感染症などの発生により変更を余儀なくされ、対応が難しい点がある。

<根拠となる資料・データー等>

- 3-1-1 別府溝部学園短期大学学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）
p 9- p 14
- 3-1-2 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）
p 116- p 128、 p 182-193
- 3-1-3 別府溝部学園短期大学シラバス
<http://syllabus.mizobe.ac.jp/>
- 3-1-4 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）
食物栄養学科「保育健康コース」カリキュラムマップ p 118- p 128
- 3-1-5 令和3年度「栄養教育実習ノート」（食物栄養学科 保育健康コース）
- 3-1-6 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）
幼児教育学科 カリキュラムマップ p 184- p 193
- 3-1-7 「履修カルテ」（食物栄養学科 保育健康コース・幼児教育学科）

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

① 現状説明

本学に併設する「幼保連携認定こども園ひめやま幼稚園」、「別府溝部学園高等学校」とは、食育・保育及び子育て支援に係る分野で相互に連携協力関係にある。食物栄養学科（保育健康コース）では、栄養指導実習Ⅰ・Ⅱにおいて、地域・社会との連携事業の推進を積極的に取り入れている。人的・知的資源の交流及び物的資源の活用として、学生には、栄養教育における「食育」の実践の場を提供いただき学外実習時間を確保している。栄養指導実習Ⅰでは、令和2年11月にひめやま幼稚園で、幼児期の食育授業として5歳児に対して指導案に基づいた料理教室（いしがきもちクッキング）と、令和3年1月には3・4・5歳児に対して食育授業体験を実施している。

幼児教育学科では、併設の幼保連携認定こども園を含む学園設置園3園と連携し、基礎実習を通して幼児教育に必要な資質を育てている。また、令和5年度も引き続き、地域・社会との連携として近隣の棚田に赴き、水稻栽培における田植え、稲刈りなどを園児と共に体験し、同時に地域の方々からさまざまなことを学ぶ体験授業を実施している。令和5年度第42回を迎えた「ミュージックカーニバル」は、学科全体が一丸となって舞台芸術に取り組む特別なイベントである。この催しでは、別府市や大分市の幼稚園児をはじめ、保育学科を設置している高等学校の学生を招待するとともに多くの地域の方々に参加してくれる。舞台を通じて音楽や表現の魅力を共有し、地域交流を深める機会となっている。さらに、地域の夏祭りでは、学生たちが地域の方々と共に地踊りを披露し、地域とのつながりを深めている。この活動を通じて、学生たちは地元の伝統文化に触れながら、地域の一員として交流を楽しむ機会を得ており、祭りのにぎわいの中で世代を超えた絆が育まれている。また、毎年、県私立幼稚園連合会から講師を招聘し、1年生を対象にした特別講義を行っている。この講義では、現役の幼稚園教諭からのビデオメッセージや保育施設で働く楽しさ、やりがいなど、実際の現場からのリアルな声が紹介されている。これにより、学生たちは保育の仕事に対する理解を深め、将来の目標に向けての意識を高める貴重な機会となっている。インターンシップでは、夏季休暇を利用し、保育園、幼稚園、子ども園など、学生が希望する施設で5日間の実習を行っている。この取り組みを通じて、学生たちは実際の現場での経験を積み、保育の仕事に必要なスキルやコミュニケーション能力を磨くとともに、職業観を深める機会を得ている。実習先では、子どもたちと触れ合う中で学びを得るだけでなく、現場の教職員からの指導を受けることで実践力を身につけている。

② 長所・特色

食物栄養学科（保育健康コース）では、「食育のできる栄養士」を目指す学生にとって、実習の基礎段階を十分体験できるよう、本学に併設する幼稚園の全面的な協力を得ている。また、県外から入学した学生等の教育実習に際しては、別府市内の小中学校が内諾するなど近隣地域との協力も構築されている。

幼児教育学科では、教育実習Ⅰ（基礎実習）を学園設置園で十分体験できるように

連携を密にしている。教育実習Ⅱ（幼稚園実習、保育園実習、施設実習）は県下の幼稚園等に全面的に協力を得ている。県外からの学生の実習には県外での実習の負担を軽減するために近隣地域の協力依頼も行っている。

③ 取り組み上の課題

食物栄養学科（保育健康コース）では、併設する高等学校には食物科があり本学に進学する生徒は少なくない。今後は、実験・調理実習の充実ならびに施設の有効活用等高大連携が一層求められる。

幼児教育学科では、併設する高校をはじめ県内外の高校と高大連携を積極的に行っている。社会に求められる保育者育成と保育者の増加のために、養成校としての一層の取り組みが必要とされている。

<根拠となる資料・データ等>

3-2-1 別府溝部学園短期大学 シラバス

<https://hyouka2.mizobe.ac.jp/digitalcampus/Syllabus/Kensaku.aspx>

3-2-2 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） p 31

III 総合評価

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、本学の見学の精神及び教育理念に基づく4つのディプロマポリシー、4つのカリキュラムポリシーを定め、カリキュラムを編成している。令和3年度教育職員免許法施行規則及び教職課程基準等の改定に伴い、コアカリキュラムに関する研修を重ねシラバス作成及びカリキュラム・マネジメントに務めている。一方で、教職課程に関わる教職員が限定され本学全教職員の共通理解が十分でないことが課題である。今後の本学は本学及び学科としての教師像を学内外に発信・共有したうえで教職課程を実施するとともに、令和の日本型教育に資する教員養成の環境として、情報通信技術の活用を増進するための観光整備や取組の奨励を推進していく。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」においては、入学前課題や入学後の個別面談、さらには実習を通じた個別のキャリア支援など、教職を志望する学生への意識の涵養に務めている。但し、入学者受入れの方針（AP）は全学科に共通した評価方法であり、教職課程に特化してものではない。今後は、学生個々の意向に沿うべくできる限りの支援に努めたい。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」においては、特色ある教職課程の促進と学修の質や系統性の担保を両立できるよう、教育課程における教職課程の位置づけを再確認したうえで点検・評価・検討を継続していく。その際、ティーチング・ポートフォリオ等を活用した関係教職員によるFD・SD研修等を通してその充実を図る必要がある。

IV「教職課程自己点検評価報告書」作成のプロセス

本報告書の作成に当たっては、令和 4 年 3 月に開催された別府溝部学園短期大学教職課程部会において、次の手順にて進めることを確認した。令和 5 年度も本プロセスに則り継続して報告書を作成している。

- 第 1 プロセス：別府溝部学園短期大学教職課程部会より実施方針及び実施手順（自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む）を提案し、検討する。
- 第 2 プロセス：別府溝部学園短期大学教職課程部会は、各学科（食物栄養学科（保育健康コース）・幼児教育学科）の教職課程カリキュラムやシラバス内容を含む教育活動の法令由来事項について点検する。
- 第 3 プロセス：各学科（食物栄養学科（保育健康コース）・幼児教育学科）の教職課程部会では、それぞれの教職課程の自己点検評価の進め方（観点や収集資料等を含む）を検討する。別府溝部学園短期大学教職課程部会は、自己点検評価の内容について、それぞれの特徴を踏まえつつ各学科間の調整を図る。
- 第 4 プロセス：別府溝部学園短期大学教職課程部会は、教職課程の自己点検評価の実施について最終確認し、別府溝部学園短期大学教職課程部会教学委員会へ報告する。
- 第 5 プロセス：別府溝部学園短期大学教職課程部会は、各学科（食物栄養学科（保育健康コース）・幼児教育学科）の教職課程部会員と協働して自己点検評価活動を実施し、活動結果をもとに報告書を作成する。
- 第 6 プロセス：別府溝部学園短期大学教職課程部会は自己点検評価報告書を最終確認した後、別府溝部学園短期大学教学委員会へ報告し、承認を得た上で情報を公表する。
- 第 7 プロセス：別府溝部学園短期大学教職課程部会は、自己点検評価活動によって確認した課題を、大学全体の事業計画の一部として改善・向上に向けたアクションプランを策定する。別府溝部学園短期大学教学委員会へ報告するとともに、各学科（食物栄養学科（保育健康コース）・幼児教育学科）と共有し、全学連携のもと改善・向上活動を進める。

IV 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

設置者： 学校法人 溝部学園					
大学名称： 別府溝部学園短期大学					
学科（コース）名称： 食物栄養学科（保育健康コース）、幼児教育学科					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業者数		食物栄養学科	26	名	
		幼児教育学科	49	名	
		計	75	名	
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）		食物栄養学科	25	名	
		幼児教育学科	49	名	
		計	74	名	
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 （複数免許取得者も 1 と数える）		食物栄養学科	6	名	
		幼児教育学科	46	名	
		計	52	名	
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）		食物栄養学科	1	名	
		幼児教育学科	17	名	
		計	18	名	
④のうち、正規採用者数		食物栄養学科	1	名	
		幼児教育学科	16	名	
		計	17	名	
④のうち、臨時的任用者数		食物栄養学科	0	名	
		幼児教育学科	1	名	
		計	1	名	
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教 員 数	食物栄養学科 6 名	食物栄養学科 2 名	食物栄養学科 0 名	食物栄養学科 4 名	食物栄養学科 3 名
	幼児教育学科 5 名	幼児教育学科 3 名	幼児教育学科 0 名	幼児教育学科 2 名	幼児教育学科 2 名
相談員・支援員など専門職員数				0 名	

令和5年度教職課程自己点検評価報告書 資料・データ等

基準領域	資料
1-1	1 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） p 8- p 15
1-1	2 別府溝部学園短期大学 2023 学生募集要項 p 00
1-2	1 別府溝部学園短期大学 令和5年度業務機構・分掌
1-2	2 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） p 31- p 35
2-1	1 別府溝部学園短期大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）掲載 https://www.mizobe.ac.jp/t_university_introduction/policy
2-1	2 2023 学生募集要項 別府溝部学園短期大学 p 00
2-1	3 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）別府溝部学園短期大学学則 第12章 科目等履修生・委託生及び外国人留学生 p 232
2-1	4 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）2 本学の機構・組織 2. 学科・コース 食物栄養学科 保育健康コース p 31- p 35
2-2	1 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023）11 就職 p208-p212
3-1	1 別府溝部学園短期大学学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） p 9- p 14
3-1	2 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） p 100- p 110、 p 144- p 152
3-1	3 別府溝部学園短期大学学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） p 9- p 14
3-1	4 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） 食物栄養学科「保育健康コース」カリキュラムマップ p 102- p 110
3-1	5 令和5年度「栄養教育実習ノート」（食物栄養学科 保育健康コース）
3-1	6 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） 幼児教育学科 カリキュラムマップ p 146- p 152
3-1	7 「履修カルテ」（食物栄養学科 保育健康コース・幼児教育学科）
3-2	1 別府溝部学園短期大学 シラバス 掲載 https://hyouka2.mizobe.ac.jp/digitalcampus/Syllabus/Kensaku.aspx
3-2	2 別府溝部学園短期大学 学生生活ハンドブック（学生便覧 2023） p 31